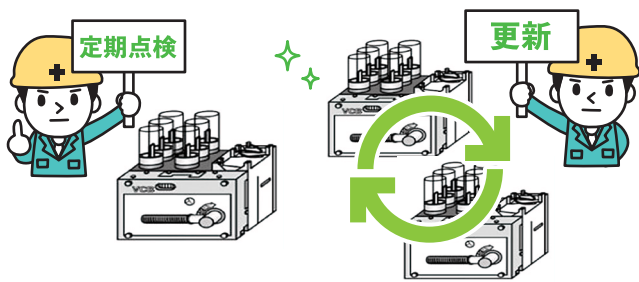


主遮断装置における各種波及事故防止対策

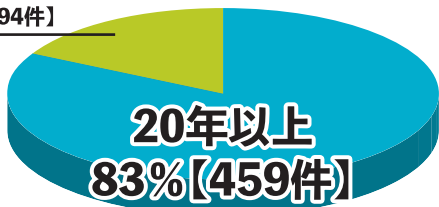
① 自然劣化対策

自然劣化で停電に至った機器の約83%が製造後20年以上経過しています。経年劣化や汚損物質の付着によって、劣化が進行し絶縁性能が低下すると、波及事故の原因となります。

製造後20年を目安とした**計画的な更新、定期点検**での**メンテナンス**が効果的な対策です。



20年未満
17%【94件】



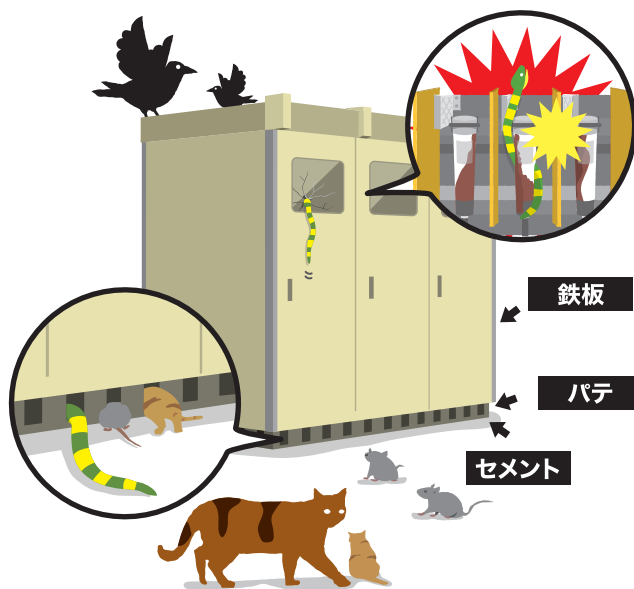
2020~2024年度 (一財)中部電気保安協会データより

② 他物接触対策

【小動物侵入】

受電設備の僅かな隙間から小動物が侵入し充電部に触れると波及事故の原因となります。

隙間を塞ぐことが効果的な対策です。



波及事故が発生したときには

① 電気主任技術者および中部電力パワーグリッドへ至急連絡※1しましょう。

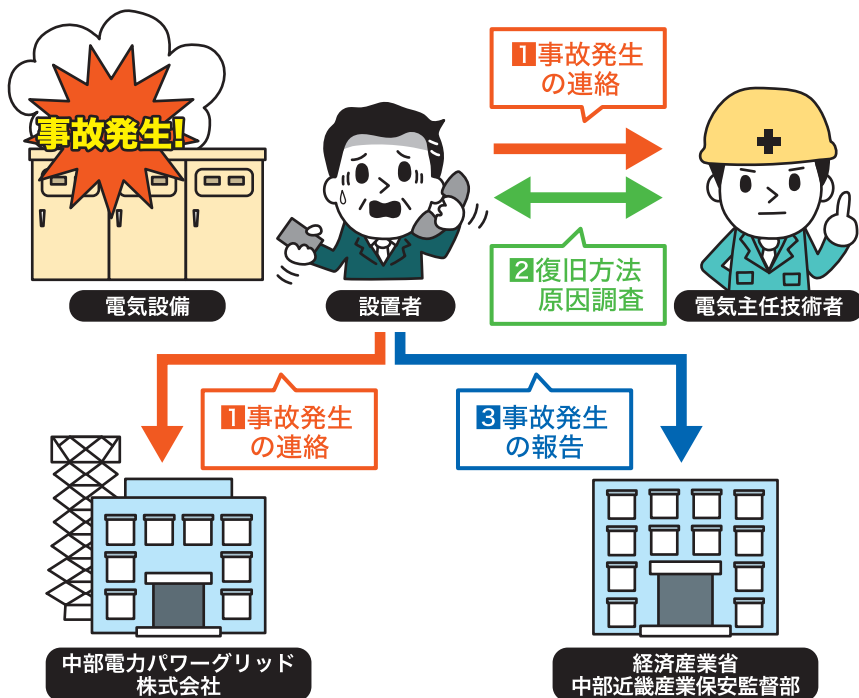
※1 緊急時に備え連絡体制を整備しておきましょう。

② 電気主任技術者と復旧方法や原因調査について相談しましょう。

③ 規則※2に基づき、経済産業省中部近畿産業保安監督部へ

24時間以内に速報を提出、30日以内に電気事故報告書を提出しなければなりません。

※2 電気関係報告規則 第3条



自家用電気設備事故防止対策連絡会

経済産業省 中部近畿産業保安監督部
(一社) 中部電気管理技術者協会
(一社) 日本配電制御システム工業会中部支部

(一財) 中部電気保安協会
電気安全中部委員会

中部電力パワーグリッド株式会社
中部電気工業組合連合会

協賛

(一社) 日本電設工業協会 東海支部
(公社) 日本電気技術者協会 中部支部

(順不同)